



2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年8月4日

上場会社名 株式会社 ロイヤルホテル
コード番号 9713 URL <https://www.rihga.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 蔭山 秀一

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員財務部長 (氏名) 坊傳 康真

TEL 06-6448-1121

四半期報告書提出予定日 2022年8月4日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	5,752	95.5	1,088	—	632	—	638	—
2022年3月期第1四半期	2,941	—	2,571	—	1,736	—	1,751	—

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 631百万円 (—%) 2022年3月期第1四半期 1,733百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	62.36	—
2022年3月期第1四半期	170.98	—

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等に適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	58,970	15,456	26.2
2022年3月期	59,920	16,088	26.8

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 15,456百万円 2022年3月期 16,088百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—				
2023年3月期(予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。当社が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式(非上場)の配当の状況については、後述の「種類株式の配当の状況」をご覧ください。

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

2023年3月期の業績につきましては、未だに新型コロナウイルス感染症の収束が見通せず、当社業績に与える影響も不透明であることから、現時点で適正かつ合理的な算定が困難であるため未定といたします。今後、業績予想が合理的に算定可能となった時点で速やかに公表いたします。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	10,271,651 株	2022年3月期	10,271,651 株
期末自己株式数	2023年3月期1Q	29,534 株	2022年3月期	29,478 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	10,242,145 株	2022年3月期1Q	10,242,366 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、入手可能な情報に基づき当社グループで判断しておりますが、未だに新型コロナウイルス感染症の収束が見通せず、当社業績に与える影響も不透明であることから、現時点で適正かつ合理的な算定が困難であるため未定といたします。今後、業績予想が合理的に算定可能となった時点で速やかに公表いたします。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

A種優先株式	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2023年3月期	—				
2023年3月期(予想)		0.00	—	0.00	0.00

B種優先株式	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年3月期	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2023年3月期	—				
2023年3月期(予想)		—	—	—	—

C種優先株式	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年3月期	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2023年3月期	—				
2023年3月期(予想)		—	—	—	—

(注) B種優先株式及びC種優先株式の2023年3月期の配当につきましては、現時点では未定としております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(収益認識関係)	8
3. 補足情報	9
生産、受注及び販売の状況	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限が緩和され、社会経済活動の正常化に向けた動きが進みました。一方、長期化するウクライナ情勢や円安による物価上昇・原材料価格の高騰等、経済の下振れリスクを残し、依然として不透明な状況が続いております。

ホテル業界におきましては、まん延防止等重点措置が解除され、全国自治体による旅行・宿泊割引キャンペーン等が実施され、3年ぶりに行動制限のないゴールデンウィークを迎えることができました。一方、原材料価格・光熱費をはじめとした各種コストの上昇により、引き続き厳しい事業環境下に置かれております。

こうした環境下、当社グループはお客様の安全安心を第一に考え、感染予防を徹底した上で営業活動にあたりるとともに、「生産性と業務効率の向上」を柱に、「ホテルビジネスの再構築」、「マーケティング力の強化」、「人事運営の改革」に取り組んでまいりました。

「生産性と業務効率の向上」については、部門を越えたサポート体制を充実し多役化の練度を上げることで、さらなる生産性の向上に努めました。加えて、購買・調理・物販製造等、新システムの導入プロジェクトを推進し、棚卸業務、食材管理、原価データ等と受発注の統括管理ができるよう準備を進めております。

「ホテルビジネスの再構築」については、2022年4月21日に当社グループにとっては28年ぶりとなる海外での新ホテル「リーガロイヤル・ラグーナ・グアム・リゾート」を開業いたしました。全室オーシャンビューの、目の前に海が広がる癒しのリゾートホテルで、自然の中でのヨガやフィッシングなどのアクティビティ、海との一体感を味わえるインフィニティプールなど、お子様から大人まで存分に非日常の時間を楽しんでいただけます。

また、リーガロイヤルホテル(大阪)では、「日本の自然」をデザインした、心潤う癒しの空間を提供するナチュラルコンフォートフロアを、新たにサステナブルステイフロアへと進化させました。資源を有効活用できるようアメニティの内容や備品を変更し、プラスチックゴミ等の削減を実現いたしました。また、地球環境に配慮した滞在のご提案として、「アメニティなし」の宿泊プランをグループ各ホテルで販売いたしました。ホテルとして、非日常を提供しながらも、地球や社会、お客様にとっても持続可能な社会を実現する取り組みを進めております。加えて、リーガロイヤルホテル(大阪)では、当社グループのグランメゾンである「レストランシャンボール」を2022年4月にリニューアルいたしました。1973年の開業当初から受け継がれる伝統の継承に「ここでしか体験できない特別なサービス」を融合し、店内に展示する絵画や新たに設けた「サロンスペース」で過ごすアペリティフタイム等、非日常を存分に堪能いただける設えにいたしました。

「マーケティング力の強化」については、スマートフォン向けアプリを活用した会員サービス「リーガメンバーズ」の新規登録キャンペーン等を実施し、会員の獲得に注力いたしました。2022年6月末時点で会員数約15万人と多くのお客様にご利用いただいております。また、新たに「宿泊戦略推進室」を本社に発足させ、当社グループを横断して宿泊部門の販売戦略や業務効率化の支援を開始いたしました。グループ共通の海外向けデジタルマーケティングやプロモーションを主導し、コロナ後のインバウンド受注に向けた取り組みを推進しております。

「人事運営の改革」については、AIやデジタルトランスフォーメーションを始めとする新たな知識やスキルを学ぶオンライン社員研修を開始し、従業員のリスクリソング(学び直し)、自己実現のサポートに取り組みしました。

このように足元の業況を踏まえた施策とともにコロナ後を見据えた施策に取り組み収益の改善に注力してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、全部門で前年同期実績を上回り、5,752百万円と前年同期比2,810百万円(95.5%)の増収となりました。

損益面では、営業損失1,088百万円(前年同期は営業損失2,571百万円)、経常損失632百万円(前年同期は経常損失1,736百万円)となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は638百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失1,751百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ950百万円減少し58,970百万円となりました。内訳では流動資産が同657百万円減少し5,265百万円となりました。これは営業損失計上等に伴い、現金及び預金が802百万円減少したこと等によります。固定資産は同292百万円減少し53,705百万円となりました。これは減価償却等により有形固定資産が257百万円減少したこと等によります。

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ318百万円減少し43,514百万円となりました。これは借入金返済により350百万円減少したこと等によります。

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ631百万円減少し15,456百万円となりました。これは親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等によります。これにより自己資本比率は、前連結会計年度末の26.8%から26.2%になりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績につきましては、未だに新型コロナウイルス感染症の収束が見通せず、当社業績に与える影響も不透明であることから、現時点で適正かつ合理的な算定が困難であるため、未定といたします。今後、業績予想が合理的に算定可能となった時点で速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,561	2,758
売掛金	1,228	1,509
原材料及び貯蔵品	396	436
その他	737	561
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	5,922	5,265
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	61,318	61,352
減価償却累計額	△48,075	△48,316
建物及び構築物（純額）	13,242	13,036
土地	27,000	27,000
リース資産	350	346
減価償却累計額	△226	△229
リース資産（純額）	124	117
その他	5,436	5,394
減価償却累計額	△4,351	△4,352
その他（純額）	1,085	1,041
有形固定資産合計	41,452	41,195
無形固定資産		
ソフトウェア	246	231
その他	57	57
無形固定資産合計	303	289
投資その他の資産		
差入保証金	11,917	11,916
繰延税金資産	3	2
その他	333	313
貸倒引当金	△12	△12
投資その他の資産合計	12,241	12,220
固定資産合計	53,998	53,705
資産合計	59,920	58,970

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	549	736
短期借入金	4,000	4,000
1年内返済予定の長期借入金	1,400	1,400
契約負債	867	948
賞与引当金	132	143
その他	1,761	1,697
流動負債合計	8,711	8,926
固定負債		
長期借入金	26,400	26,050
繰延税金負債	17	11
退職給付に係る負債	5,407	5,415
長期預り金	3,143	2,969
その他	152	141
固定負債合計	35,120	34,588
負債合計	43,832	43,514
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	20,835	20,835
利益剰余金	△4,724	△5,362
自己株式	△61	△61
株主資本合計	16,149	15,510
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	39	30
退職給付に係る調整累計額	△101	△85
その他の包括利益累計額合計	△61	△54
純資産合計	16,088	15,456
負債純資産合計	59,920	58,970

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	2,941	5,752
売上原価	663	1,309
売上総利益	2,278	4,442
販売費及び一般管理費		
水道光熱費	324	490
人件費	2,250	2,454
諸経費	2,275	2,586
販売費及び一般管理費合計	4,850	5,531
営業損失(△)	△2,571	△1,088
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	1	3
雇用調整助成金	786	366
協力金収入	74	154
その他	47	17
営業外収益合計	912	542
営業外費用		
支払利息	75	86
その他	1	0
営業外費用合計	77	87
経常損失(△)	△1,736	△632
特別損失		
固定資産除却損	1	2
減損損失	5	0
特別損失合計	7	2
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,744	△635
法人税、住民税及び事業税	3	3
法人税等調整額	3	△0
法人税等合計	6	3
四半期純損失(△)	△1,751	△638
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,751	△638

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純損失(△)	△1,751	△638
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3	△8
退職給付に係る調整額	21	15
その他の包括利益合計	18	6
四半期包括利益	△1,733	△631
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,733	△631

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、未だに感染症の広がりや収束時期等の不透明感が強いことから、2022年度においてもまだ一定の影響を受けることを前提として、繰延税金資産の回収可能性等を検討しております。

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の連結子会社は、当第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
客室	664	1,540
宴会	919	2,082
食堂	532	1,206
その他	607	709
顧客との契約から生じる収益	2,723	5,539
その他の収益	218	213
外部顧客への売上高	2,941	5,752

(注) 「その他の収益」は、リース取引に関する会計基準に基づく不動産賃貸収入等であります。

3. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

部門別売上実績

(単位 金額：百万円、構成比：％、増減比：％)

部 門	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)		比 較	
	金 額	構成比	金 額	構成比	増減	増減比
客 室	664	22.6	1,540	26.8	876	132.0
宴 会	919	31.2	2,082	36.2	1,163	126.5
食 堂	532	18.1	1,206	21.0	673	126.3
そ の 他	825	28.1	922	16.0	97	11.8
合 計	2,941	100.0	5,752	100.0	2,810	95.5

(注) 受注生産は行っておりません。